

あがるてん便り

OKARUTEN PRESS

ひと針ごとに祈りを込める
子どもを守る背守りのこと



健やかな成長を願う 母心から生まれたお守り

「背守り」という美しい風習

病気にならず元気でいてほしい。大きな怪我をしないでほしい。どんな時代であっても子どもに対する母の想いは同じです。

いまのように医療の発達していなかった時代には、そう願っていても大きくなる前に亡くなる子どもが少なくありませんでした。

「7歳までは神の子」。神様から預かった命だから、いつ神様の元に戻るかわからない。どうしようもない運命にあらがえない気持ちから、そんな言葉が生まれるくらい、幼い命を育てることがたいへんな時代。たとえ避けられない運命であったとしても、どうか、この子だけは無事に一。

いつしか、その願いをひと針ひと針に込めながら、子どもたちが身につける着物の背中に縫い取りをする風習が生まれました。それが「背守り」と呼ばれるものです。

その昔、霊魂は背中に宿っており、背中には目がなく無防備なため、着物の背の縫い目によって身を守っていると信じられていました。しかし大人の着物と違って、子どもの着物には目がないことから背後から魔が忍び込むかもしれない。そう危惧をした母たちは魔除けとして「背守り」をつけるように。着物の背に沿うようにまず縦に9針、そして男児なら左に3針、女児なら右に3針。これが背守りの基本形。糸の端は、長く垂らしておきます。それは、うっかり井戸や池に落ち込んだときに、守り神が引き上げやすくするため。悪い鬼に捕まるのを防ぐために、糸を玉結びせず、するりと抜けるようにしたのも願いの象徴です。

糸は紅白かあるいは色とりどりの5色の絹糸で。とはいえ、ものなかつた時代のこと。庶民の背守りはあり合わせの材料で作ることも多かったようです。

背守りのもうひとつの特徴は、家紋をつける位置にさまざまな文様をつけること。力強くのびる麻の葉や、寒さに耐えて咲く梅の花、厄よけになる籠目模様。どの文様にも、それぞれの母の願いが込められていました。

危険な目にあわないように無事に生き抜いてほしいという願いは、時代が移り変わっても決して変わることはありません。だからこそ「背守り」という美しい風習を、ぜひとも伝えていきたい。わたしたちは考えました。

我が子に渡す最初のお守りとして長く受け継がれてきた「背守り」に想いを託して、ひと針、そしてまたひと針、縫い取りをする。どうか無事で、しっかりと自分の道を歩いていけますように。その思いこそが、どんな魔物からも子どもたちを守る強い力となることでしょう。



かけがえない宝物である子どもたち。「背守り」には、そのちいさな背をそっと包み込むような優しさがあります。



「背守り」の基本形は、12針。これには1年12カ月無事に過ごせるようにとの願いを込めたからといういわれが。

お祝いにも背守りを贈りたい

時代の変化とともに風習はいつしか忘れられてきたとしても、我が子への想いは変わらないもの。長く伝え続けられてきた「背守り」という風習を知ったわたしたちはこれを現代の生活にも取り入れられたらと考えました。そこで生まれたのが、2つのオリジナルアイテムです。

「背守り」には、家紋代わりの文様をつけていたことをヒントに、子どもと女性の守り神おかるてんさんの象徴である「ザクロ」の刺繍をほどこしました。おかるてんさんがいつも見守ってくれていれば、背中から忍び寄った魔だって、畏れをなして逃げ出すことでしょう。

大切な子どもたちが身に着けるものですから、素材にもこだわりました。ロンパースは国産オーガニックを使用し、風合いを大切にしました。おくるみは、品質に優れた今治タオルブランドのもの。いずれも肌に優しく、そして同じく子育て中の自分たちが長く愛用したいという視点で厳選しています。ご祈祷もしておりますので、そのままでもお守りとなるのはもちろん、願いを込めながら基本となる魔除け糸を縫い取りもしていただいても。お祝いの気持ちと一緒に「背守り」という風習を伝える。そんな贈りもの、素敵だと思いませんか？

BACK



FRONT



せまもり〈ロンパース〉70cmサイズ(生後6か月〜)・¥5,500(税別)

デリケートな赤ちゃんの肌にも優しいものをと、国産のオーガニック素材のものから厳選。肌着イメージが強すぎない上品なベージュ色だから、夏はこれ1枚でも。

BACK



FRONT



せまもり〈おくるみ〉80cm×80cm・¥8,500(税別)

生まれたばかりの赤ちゃんをふんわり包み込むおくるみは今治タオルブランドだから、吸水性なども抜群。大きくなってもお風呂上りに長くご愛用いただけます。

金倉寺のNEW GOODS

岩佐佛喜堂と開発・販売する「柘榴香」。金倉寺売店で販売しています。1,200円(税別)



これまでも金倉寺では、安産祈願の際にお供えいただいたザクロを使ってジャムやお酢を手づくりしておりました。

このたび、香りの記憶もともに持ち帰っていただければとの思いから、祈願の際に焚いているお香もザクロの香りへ。そのお線香とは思えないほど甘くて心地よい香りに、ふだんの生活にも取り入れたいとお声を多くいただき、開発メーカーとともに発売することとなりました。

ザクロの香りに包まれるたび、おかるてんさんに守られているような気持ちになれます。

安産祈願の際にお渡ししているザクロジャムや、ご縁日などで飲み物としてもふるまうザクロ酢





金倉寺からのご案内

毎月16日はおかるてんさんのご縁日です

金倉寺では毎月16日の10時から14時まで「おかるてんさんのご縁日」として訶利帝堂を開放しています。子授けや安産、お子さまの心配ごとなど、子どもに関する願いはさまざま。自由におかるてんさんにおまいりください。副住職、香祥とちょっとしたお話を、というときもどうぞお気軽にお越しただけたら、幸いです。

同じような不安や悩みを持つ方同士のご縁が生まれることもあります。ザク口を使った飲み物を楽しみながら、ゆったりとした時間を過ごしてください。また、当日は祈願帳をご用意。ご記帳いただいた願いごとは、14時から副住職が祈願させていただきます。



願いごとが書かれた絵馬の数々。手描きの絵馬から好みのものをお選びください。



不安や悩みはもちろん、ちょっとしたお話を楽しむ時間としても。

毎年5月第2土日はおかるてんさんのおまつりです

子どもたちとご家族に楽しんでいただけるようにと、毎年5月第2土日に境内にて「こどもまつり」を行っています。

期間中は子どもと女性の守り神である訶利帝母尊（おかるてんさん）を本堂に移動。いつもより近くでおまいりいただけます（祈願中などで拝観ができないこともあります）。ほかにも平服での稚児行列にご参加いただけ（先着順）、絵馬の奉納や各種祈願、人形供養なども受け付けています。

また、会場ではパフォーマンスや演奏などのイベントも開催。さまざまな体験教室なども行っています。ぜひ足をお運びください。



香川県警察音楽隊による演奏など、楽しめる催しをたくさんご用意しています。



近隣の高校生によるさまざまなパフォーマンスも毎年人気です。

〈編集後記〉

おかるてんさんのいらっしゃる金倉寺訶利帝堂で番をしている香祥と申します。祈願のお手伝いや参拝者とお話をするのが主な仕事ですが、普段は四歳と〇歳の男の子の子育てに奮闘中です。「お母さん」という仕事は、まさに日々が半探り状態。一人目は、育児中の記憶がないくらいとにかく無我夢中。二人目は一人育てたので少し余裕ができるかと思いきや、上の子とのバランス、手がかかるのは同じなど、結局毎日がドタバタ。あつという間に毎日が過ぎ去っていきます。そんな日常の中で、自分のことはさておき、ゆったり子ども

のために時間を使うということなんて無理、と思うかもしれませんが、でも、いつもより怒りすぎて自己嫌悪に陥った後、子どもが甘えてきたときに思わずずっと長めに抱っこしたり、お母さんを見つけて満面の笑みでハイハイしてきて、こちら両手を広げて待ち受けてみた。そんなことを思い出すと、なぜか子どものために何かしたい、できる、と感じるものです。「背守り」という針仕事は、そんな気持ちの象徴だと思うのです。時間のない今こそ、子どものために少し時間を取ってチクチクしてみませんか。不思議と心が落ち着いて、子どもたちのことがもっと好きになりますよ。

